



未来を夢見て Season 2

2021/12/20 No. 116

給食の大切さ

～毎日おいしくいただいた給食に感謝の心をもって 放送による児童集会から～

12月20日（月）、学校に到着すると校庭が一面の銀世界に覆われていました。先週末から降り始めた雪が小野小学校の校庭には解けずに残っていたようです。ただ、雪、というよりは氷になっていて、業間休みには多くの子供たちが氷を遊び場に滑って遊ぶ姿が見られました。思わぬ贈り物で、子供たちの笑顔と歓声で一杯の校庭となりました。



笑顔と言えば、先週金曜日の給食は「クリスマスメニュー」、キャロットピラフ、ポークビーンズ、エビカツ、そしてこの日は一人一人にチョコレートケーキまで準備されました。

子供たちにとっては、給食センターの皆さんからの一足早いクリスマスプレゼントとなり、どの教室でもクリスマスメニューを堪能する子供たちの笑顔で溢れていました。



12月20日（月）の朝の児童集会は放送で保健委員会と給食委員会のみなさんが担当です。給食委員会の皆さんは、紙芝居を作って、「給食の大切さ・給食の歴史・食品ロス」について説明してくれました。特に「残食」については子供たちも問題意識をもって、子供たちから問題提起できたことにとっても意義があるように思えました。



さて、気がつけば今年も残り10日あまり。昨年度から続くコロナ禍で、新しい生活様式の学校生活では、たくさんの我慢を子供たちに強いてきました。特に大規模校の本校では、運動会や音楽会など従来行ってきたイベント的な行事を今年も行うことができませんでした。そんな学校生活に潤いを与えて続けてくださったのが給食でした。私も長く小学校で勤務してきましたが、大和町で提供される給食は味も栄養も満点で、何より作ってくださっている方々の子供たちを思う気持ちが1つ1つの料理に込められているのが隠し味で効いています。大和町産のお米をメインにしたハヤシライスやカレー、また、県内産の食材をふんだんに生かし、素材の風味を生かした汁物や煮付けは絶品です。

毎日おいしく給食をいただけてきたことに感謝し、来年も毎日美味しい給食をいただけることを願って、今日と明日、今年最後の給食を子供たちと堪能しましょう。（文責：手代木）